

第7回利根町小中学校適正配置等調査検討委員会 議事録（要旨）

1 日 時 平成30年8月1日（水）19:00～21:00

2 場 所 利根町役場4階A会議室

3. 出席委員（7名）

会 長 岡 賢市 委 員 中澤 則明
委 員 船川 京子 委 員 大越 伸江 委 員 大竹 正人
委 員 仲田 義弘
委 員 浅野 恵次

4. 欠席委員（3名）

副会長 川村 啓三 委 員 近藤 敬一 委 員 花嶋 洋子

5. その他出席者 な し

6. 事務局

学校教育課長 大越 克典
学校教育課課長補佐 河村 明
学校教育課課長補佐 弓削 紀之
学校教育課係長 布袋 哲朗
学校教育課係長 大貫 浩希

7. 会議次第

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 事務局説明・意見交換
 - (1) 第7回検討委員会資料
答申書（案）
 - (2) 次回の日程について
4. その他
5. 閉会

8. 議事

1. 開会

○事務局 ただいまより、第7回利根町小中学校適正配置等調査検討

委員会を開催いたします。

2. 会長挨拶

○会 長

平成最後の夏でございます。暑いですね。最後の夏ですけれども私達は、第1回目の平成30年1月31日からスタートしましたが、今回で既に第7回になるんですね。その中でいろいろなご意見を出していただき、また、資料を出していただいて大体の形が出来上がってきたという状況だと思います。

適正規模・適正配置というのは、非常に大事なことで、現代の子ども達が、集団の中でどうやって育つのか、精神的に非常にアンバランスのような気がしてならないんです。それでいて、家族間の絆というのが非常に強いものを持っていて、でも、これが集団生活の中で活かされているかというところではない。集団生活になると非常にてんでんばらばらで授業をするような形になるので、そういう意味からすると、他の子ども達のふれあいを通して、「友達というのはこういうものなのか」とか、あるいは「集団の中で皆の意見を聞くことによってこんなことが出来るんだ」とか、「こんなことを考えているだ」という人を見る目というのが育ってくる。そういう意味では、適正規模の中で子ども達が育っていくのが非常に大事なことなんだろうと思うんです。

私達は、適正規模・適正配置ということでやってきたので、その方向で進むんですが、ただ何年か経つと、また今のような単学級になっていくようなことも含め、将来の利根町の学校というものがどうあるべきか、さらにその後、追求していかないといけない壁が出てくるのではないかと思いますので、私達が現在のところ取り組んでいる内容については、皆さんの意見がまとまるのではないかと思いますので、良い意見をまた出していただいて進めていければと思います。よろしく申し上げます。

3. 事務局説明・意見交換

○事務局

それでは、事務局説明、意見交換に入りたいと思います。

ここからは、会議の進行を岡会長にお願いしたいと思いますので、よろしくお願いたします。

○会 長

それでは、皆さんのご協力を得まして、いろいろな意見を

出していただきながら協議を進めていきたいと思ひます。
事務局の方から会議資料の説明をお願いいたします。

○事務局

第7回会議資料の説明

答申書（案）

○会 長

ありがとうございました。この資料は、皆さんのところへ少し早く届いていますので読んでいただいているとは思ひますが、答申書の内容は、「これではまずいのではないか」、「ここはこう直したい」という意見があると思ひますので、今日は、その辺を出していただひて、この答申書が皆さんの意見から完成するような方向へ持っていきたいと思ひますのでよろしくお祈ひします。

まず1ページの「はじめに」について、直してほしいなというのがあったらご意見をだしていただひたいと思ひます。

次に、2ページ「小中学校の適正規模について」ここの部分も問題はないかと思ひんですがいかがでしょうか。

それでは2ページ、3、4ページは通過します。

5ページから9ページは、利根町の小中学校の児童生徒数、学級数の動きです。

8ページ、9ページも、以前に検討委員会の資料ですので通過させていただきます。

それから、10ページから12ページの「小中連携教育・小中一貫教育について」は、今までそんなに議論しなかったところなんですが、共通理解を図るためにこういう内容はどうなんだろうというのがありましたら、理解を深めるためにもご意見を出していただひければ有難いと思ひます。

小中一貫教育は、小学校1年生から中学校3年生までの9年間の教育で、今までは小学校6年生までで切れて、新たに中学校という形だったんですが、それを一貫する、いわゆる小学校1年生から中学校3年生までを通した形で子ども達の発達を見ていこうというのが、この小中一貫教育なんです。私の経験からなんですが、流れでいうと3年生、4年生というのは、昔から「ギャングエイジ」といわれ非常に活発な発達をするんです。その活発な動きをする中で

目的を持たせて、例えば、研究に打ち込もうとか、あるいは、運動に打ち込もうという形で横道に反れないよう求心力とかその手綱をしっかりと持ちながら、活動させるということが3、4年生あたりでは一番大事ではないかと思うんです。それから5、6年生になると、昔は考えられないことだったんですが、女子児童の発達が早くて精神年齢的にも男子より女子の方が遥かに上にいってしまう時期なんです。今は、もう本当に男女のあり方が、果たしてこれで良いのだろうかというくらい差がついています。ですから、そういう中でどのような指導体制を作っていくかということも一貫教育の中で大きな課題になります。

皆さんがよく言われている「中1ギャップ」なんですが、この辺のところを解消していれば「中1ギャップ」ということはないんです。5年生から6年生にかけても教科単位制の授業をやっていけば、「中1ギャップ」なんて全くあり得ないので、そのまますんなりと中学3年生までいけるんです。

ただ、中学1年生の後半から2年生には、皆が歩まなければならない反抗期というのがありますから、その辺の生徒指導のあり方というようなことを考えていくと一貫した教育が出来てくると思います。そうすると高校との連携、大学との連携というような連携教育が出来てきて、6歳からひょっとして18歳までの流れの中に大きな目標を持った教育体制が出来ていけるような気がするんです。

そういう意味では、一貫教育というのは、非常に大事な教育だなということが分かります。ここは、あまり検討しませんでしたでしたがそういう流れを理解していただければ、今後スムーズにいくのではないかと思います。

13ページから16ページまでの「むすび」のところです。問題は、この「むすび」の部分ですので、ここはもう一回読んでいただいて、ご意見をいただけたらと思います。今日は、「むすび」の文章を完成できれば良いなと思いますので、よろしくお願いします。

○委員 質問ですが、答申の様式のようなものは決まっているんですか。

「答申書」という様式が決まっていればしょうがないん

ですが、読んでみて前の方は、ほんと資料で、「むすび」が答申内容なので、逆に、前の方に答申と書いていただいて、その後ろに、資料は資料で分けてもらった方が分かりやすいかと思います。

○委員 13ページの「本答申を契機に」というところなのですが、「町行政は小中学校の適正規模・適正配置等の実現に向け、」となっているので、「保護者、地域住民、学校関係者の理解と協力を得られるように努め、実施することを期待します。」ではなく、「協力を得ながら推進していくことを期待します」に直した方が良いと思います。上が「実現に向け」になっているので「努め、実施する」という表現だと同じ意味が繰り返しになっているような感じがするので、文言に直した方が良いと思いました。

それから「小学校について」というところで、「豊かな」「か」を入れるということと、一番下から4行目のところの「教育委員会の試算では」以下は、全部、文小学校のことが書いているので「文小学校においては平成34年度に児童数が100名を下回り」とし、検討委員会で話題になった入学予定者が4名になることも入れた方が良いのかなと思います。ですからここは「平成34年度には児童数が100名を下回って平成35年度には入学予定者が4名、平成36年度には複式学級になる」とした方が、文小学校が本当にこういう状況になるのだということを強調して入れるべきではないかという風に感じました。

○委員 私も、今言われたように決定的なところは、「平成36年度に文小学校で2学年と3学年が複式学級になってしまうことだけは避けたい」というところが一番ネックだと思っているので、「現状のままでも良いのかも知れないけど、やはり複式学級になってしまうことだけは避けたい」という文言を入れた方が良いと思いました。

○会長 はい、分かりました。ありがとうございます。他にないでしょうか。その辺の文言は、しっかりよく読み込んでみたいと思います。ありがとうございます。

それでは14ページにいてもよろしいでしょうか。

○委員　　まず、最初の統合場所なんですが「2案にまとめました。」となっているんですが、これは先方（教育委員会）に選択肢を与えるという形ですよね。私達は、どういう方向が良いのかということで諮問を受けていますので、検討委員会で一つに、こういう方向が一番望ましいのではないかとというような答申が良い、普通答申というのは、本来一つではないかと思うんです。

○会長　　大体、布川小学校という一つの方向に進みつつあったんですが、将来において義務教育学校を造るということであれば、文小学校だと思うので、そうであれば、この二つの案を答申として持っていった方が良いという形で出てきたのだと私は理解しているのですが。

○委員　　ただ、同じ14ページで「施設一体型の義務教育学校を目指すべき」ってあるので、先程、会長がおっしゃったようにここの部分の議論はあまりしてなかったと思うんです。なのになぜか「施設一体型義務教育学校を目指すべき」となっているので、個人的には反論しませんが、正直、現場の校長先生のご意見は機会があったら伺いたいとは思いますが。

最後のところに「いずれにしても、その際には、学識経験者、保護者などによる検討委員会を立上げ検討することが望ましい」というそういう姿勢をここはとっているのですが、ここの部分は良いのかなと思うんですが、ただ、二案をやぱり一つにするべきではないかと思えます。

この二案を一つにするために、今まで議論を重ねてきたと私は認識しています。そのために、それぞれの分野の代表がここに集ってきていると考えているので、その判断の一つとして、8ページの上の文章に「文小学校と文間小学校についても、今後、改修が必要となります」とされていて、具体的には予算的なものはここには記載されていませんが、14ページには「布川小学校に小学校を統合した場合には、20年後に長寿命化改修工事を実施せざるを得ない」という、こういうそれぞれの小学校の将来的な部分もここに明記されているので、それも判断材料の一つになるのではないかと思います。

○会 長 ありがとうございます。他の委員さんはどうでしょうか。

○委 員 私も、やはり、どちらか一つにまとめるべきだと思います。

○委 員 答申受ける側というか、読む側としては、今までの経過の話しもそうなのですが、「望ましいと判断いたしました」と書くので、結局どっちに判断したのか、現時点では、小学校を一つにまとめるということは決定事項で、統合場所は、文小学校にするのか、布川小学校にするのか、20年後はどうか、現時点では布川小学校にするということですよ。だったら、「判断いたしました」となっているわけだから、それを明確に打ち出すしかないと思うんです。

 案2を明示するのか、それとも、今までの検討委員会の経過を踏まえて布川小学校が望ましいと統合場所について明示するのか、単純明快にした方が、私は分かりやすいのではないかなという感じがしました。

○委 員 こういう案もありましたが、我々が検討した結果、「一つの案でいきたいと思います。」という感じで「判断します。」ということを書いてもらった方が受ける側は良いと思います。

 経過としては、文小学校という案も出たということは、お伝えしておきたいです。現時点で諮問された検討委員会としては、「こういう決定です。」ということを示した方が、分かりやすいのではないかと思います。

○会 長 それでは、案を一つにまとめるということでよろしいでしょうか。

○委 員 まだ最終確認が。具体的にどうするか、代表の皆さんの意見は、一つにまとめて良いのか。私は一つにするべきだと思います。そして検討委員会の中で、文小学校においてもメリット・デメリットがあって、様々な意見があって、判断にはいろいろ紆余曲折があったみたいなことは、付け加えてもらいたいと思います。

○会 長 その検討委員会の経過みたいのが入ってくれば、確かに文小学校はいろいろな意味で公共施設が周辺にあるけれども、現状を考えた場合に、教室とか校舎などお金のかからない方法で進めていくとしたら、布川小学校が望ましいと考えた。文小学校の部分も多少入れてこういうこともあったけども私達の意見としては、布川小学校に決定しましたという形をとった方が良いということで、今までも布川小学校の中身の方が濃かった訳ですから、この検討委員会としては、布川小学校という位置づけをしていった方が良いのかなと私は思うのですが、皆さんの意見はいかがでしょうか。

○委 員 同感です。

○委 員 文小学校の大規模改造工事が平成14年なのでそれを考えると平成34年で20年経ってしまいますから、4年後には改修工事をしないといけなくなるということですか。

○事務局 14ページの下部分は、義務教育学校にするならば新設した方が良いのではないかという話もありましたので、布川小学校に統合した場合でも、20年後には布川小学校も長寿命化改修工事をするようになりますし、利根中学校も当然同じ時期に長寿命化改修工事をするようになりますので、両方実施するのであれば、子ども達が将来もっと減ったりした時には、今の文小学校を壊して新設することも当然選択肢に入れてはということで載せております。

○委 員 「約20年後」の部分には、もう少し文言を足して分かりやすくしてもらった方が良くと思います。

○会 長 文言については、後でもう少し検討させてもらうこととして、まず、先程でました答申案をまず一つにまとめたいと思います。

○委 員 四季の丘の方は、まだ新しい家が建ったりして、布川小学校区の人口がちょっと増えていますので、文小学校は、子どもが少なくなる一方で、布川小学校が増えているのに文小学校に統合するというのは、どうかなというのがあります。

- 委員 先程、経過云々の話しができました。だから、経過の中の一つとして文小学校という課題もいろいろ出てきましたから、その辺もこの中に経過として入れて、その上で、検討委員会としては、布川小学校が望ましいのではないかという判断をしたというような道筋をつけてここに示せばもっと良いのではないかと思います。
- 会長 皆さんの意見の中から、この文言は決定しなかったのですが、良い案ができました。他にありませんか。
- 委員 もし布川小学校に統合するところというところが問題点で、逆に文小学校に統合するとどうなのかといった話しになって、その話し合った内容が、ただこの案1、案2になったような感じがあるので、その1回からいままで話し合った内容、メリット・デメリットやその他こんなことを話し合ってきて、こういうことも出てきたけれども、結果的に望ましいの是一案ですというようにした方が良いと思います。
- 会長 はい。そうすると統合についてという上のリード部分の説明が少し足りないということだと思います。この中で行き着いた今までの説明を入れて「最終的にはこうなりました」という一案に持っていくのが望ましいということでしょう。
- 委員 そうですね。そうでないと今まで長い時間を割いて話し合ってきた内容が、ただこの文章にまとめられて、これだけを読んで判断材料になってしまうので、今まで話してきた中身、布川小学校にしたらこういうメリット・デメリットがでてきて、その内容をここに明確に載せてそれを踏まえてこういう判断をしたという風にした方が良いと思います。
- 会長 大分見えてきましたね。それでは、答申案は一案にして、それに関して、経過や議論の中身を説明文、資料でも良いと思いますが、しっかりと答申の中に入れるという形でよろしいでしょうか。
- 委員 答申書の中できちんと答えているのは、布川小学校に統

合することだけで、再三議論を積み重ねた時期の問題とかが入ってないんですけれども、何年ごろが望ましいっていうのは、検討委員会としては入れない方向ということで理解して良いのでしょうか。

○事務局 検討委員会の会議で統合の時期的なものは、以前、平成35年度くらいという話が出ていたんですが、適正配置・適正規模に関して言うと平成33年度には、布川小学校の1学級を除き、全て1クラスになるというような話が出ましたが、統合の工事等を考えるとどうしても平成35年度になってしまうのかなと思います。先程、委員さんの方から2年遅らせれば、増築工事も不要になるのではないかとといった話しもあったので、時期については、あえて入れませんでした。ただ、付帯意見ということで、「小学校統合等の実施にあたっては、児童生徒数の推移を的確に把握し、町の財政面を考慮し、統合時期を決定すること。」という文言にしております。2年遅らせればという話しが合ったので入れなかったんですが、時期を明確に入れた答申にするということも可能だと思います。

○委員 平成35年度を目指して進める中でいかに数多く、より多くの人達にこの現状を把握していただいて、その上で平成35年度なり平成34年度開校だったなら非常に良い、ベターな案ではないかなという風に思っています。

○会長 今日の大きな課題をちょっとだけまとめます。
まず、14ページの「統合場所について」、ここの部分については、リード部分を長くして説明をしっかりと一案に絞る。その説明については、重要なところなので、今日いろいろ皆さんに意見を出してもらったので、その辺も含めて事務局の方で文章を考えてもらい、もう一回検討させてもらうということで良いでしょうか。

○委員 はい。

○会長 14ページの方はそういう形でもう一回、次回までに文章等を考えていきます。

そして、15ページで何かここを直したいという意見がありますか。「アンケートを実施するなど当事者及び関係者の意向を十分に把握し決定すること」ここは教育委員会に要望しますので、教育委員会がそれをどう受け止めてくれるかの問題ですからそこは理解していただきたい。

そして、後は統合の時期を平成35年度にするのか、それともいつにするかという目安はどうしますか。

○委員 平成33年度統合から平成35年度統合になって、財政面の説明を結構濃厚にやっていただいて迷いがちょっと生じて、最終的に「平成35年度に統合しましょう」という結論を出した訳ではないまま検討していると認識しています。校長先生からも現場の状況を伺ったりして、具体的な数字も事務局の方で出してくれました。平成35年度にした場合の問題点、1年、2年延ばせばそれは解消されるというような説明は受けたと思います。

個人的には35年が望ましいと思いますが、町としては町全体にたった舵取りがあると思うので、つついいろいろなことを考えてしまい1、2年延ばせるものならというのが本音です。

○会長 適正規模・適正配置ということを大前提としてスタートしている訳だから、それになる前にもう複式学級になってしまったらこの検討委員会は意味がない。だから、やはりその複式学級になる前に何とか体制を作ろうというのが、委員皆の意見だと私は思っています。

○委員 そういうようなことでずっと議論してきた訳ですから、それを蒸し返す必要はないと思っていますので、平成35年度というのはきちっと明記しても良いと思います。

○委員 私もやはりここにちゃんと「統合の時期について」ということで明記した方が私は良いと思います。それだけここで議論した訳ですから何もないというのはちょっと。

○会長 分かりました。今日、結論は出せなかったけど良い方向へ動き出したと思います。まず、平成35年度に統合という

